

## 第2学年D組 国語科学習指導案

指導者 十文字 富美絵

### 1 単元名 論理的文章の論理性を評価しよう「『ふしぎ』ということ」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

- 文章を読んで構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 文章を読んで構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。  
(読む能力)
- 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉える。

(知識・理解) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章に表れている書き手の考え方の筋道の通し方などを、構成、展開の仕方や、要旨の伝え方などの点から分析・考察し、その価値を判断しようとしている。	文章に表れている書き手の考え方の筋道の通し方などを、構成、展開の仕方や、要旨の伝え方などの点から分析・考察し、その価値を判断している。	書き手が自分のものの見方、感じ方、考え方を、より効果的に表現しようとする用語の選択について理解し、それぞれの視点から、表現の特色を捉えている。

#### 3 単元の指導について

##### (1) 生徒観 (平成26年4月9日実施 調査人数35人)

評論文の読み解き問題において、本文の全体主旨を捉える問題の正答率が40%，本文の要旨を捉える問題の正答率は35.7%であった。また、学習方法に関する調査結果では、「評論文は本文の全体像をつかむようにする」との回答が、24人であった。これらの結果から、評論文の読み解き方法について、全体像をつかもうという意識はあるものの、要旨を的確に把握することができていないと考える。

##### (2) 教材観

第1学年では、国語総合において「水の東西」(山崎正和)、「日本語万華鏡」(鈴木孝夫)などの論理的文章を学習している。本単元では、自分の生活体験と関連させ、批判的な読みの交流を経て理解や解釈を深め、それを基に自分の考えをもつことを目指すが、本教材は、生徒自身が「ふしぎ」に思っている日常的な体験と関わる話題をきっかけにして、自分の生活体験と関連させながら、文章の論理性を評価することができるので、目標を達成するのに適した教材であると考える。

##### (3) 指導観

本単元では、まず、「ふしぎ」に思うという日常的な体験と関わる話題をきっかけに、自分の生活体験と関連させることで問題意識をもたせる。次に、核心的な論理(対比・言い換え・媒介)を用いて、接続表現等に注意しながら文章構成図を作成することで主題、結論に迫り、それを交流することで要旨の捉え方について考えを深める。以上の過程を経て、批判的な読みの交流を行い理解や解釈を深め、それを基に構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価することを目指す。

##### (4) 具体的な手立て

ア 付けたい力を明確にしたモデルの作成及び評価のポイントの明示

(ア) 付けたい力を明確にした学習評価のポイントの明示

導入時に、単元の評価のポイントを明示したプリントを配付して、付けたい力を明確にし、生徒がより高い評価を目指して課題解決に取り組む契機とする。評価は達成できたレベルの枠に○を記入するだけの簡潔なものとし、次時に確認した際に、課題がすぐに分かるようとする。

#### (イ) 学習カードを活用した学習評価のポイントの振り返り

実態調査から、小中学校での学習カードの活用率は約7割と高い。本単元においても、第1次から、各時間の学習の目当て、自己評価、学習したことと次時の課題を記入する学習カードを活用し、学習評価のポイントの振り返りを行い、それに教師の助言を加えることで、前時までの評価を踏まえた課題を明確にする。

(ウ) 言語活動の体験を基にしたモデルの作成

教師自身が、教材文を読んで、筆者に賛成する視点と、筆者に反対する視点を書いたワークシートまとめ例を作成し、モデルとして生徒に提示する。

イ 評価のポイントに基づく評価結果を踏まえた指導の工夫

(ア) 批判的な読みを身に付けるための評価の工夫

自分の生活体験を踏まえ、書き手の主題設定、議論の進め方、その答えの妥当性を考え、その結果を自己評価するためのワークシートを活用し、批判的な読みを身に付ける。

#### (1) 批判的な読みを交流するための授業づくりの工夫

生徒の学習段階に対応して評価のポイントを明示し、評価結果をチェックするための「課題解決チーム学習の力の段階的な獲得目標チェックリスト」を活用し、批判的な読みを交流する。

#### 4 単元の指導計画（6時間扱い）

第1次 学習計画を立て、自分の生活体験と関連させる。 . . . . . 1時間

第2次 議論の骨格をつかみ、批判的な読みの交流をする。 . . . . . 4時間

時	学習内容・活動	観点別評価規準
1	三つの意味段落のすべてについて、核心的な論理（対比・言い換え・媒介）を視点に議論の骨格を捉え、記号を用いて的確に文章構成を図示し、その文章構成図を基に、主題と結論をまとめること。	書き手が自分のものの見方、感じ方、考え方を、より効果的に表現しようとする用語の選択について理解し、それぞれの視点から、表現の特色を捉えている。 (知識・理解)
2	個人でまとめた文章構成図と主題・結論を4人のチームで交流し、より的確に議論の骨格を捉える。	文章に表れている書き手の考えの筋道の通し方などを、構成・展開の仕方や、要旨の伝え方などの点から分析・考察し、その価値を判断している。 (読む能力)
3	第2時で捉えた議論の骨格を踏まえ、第1次での自分の問題意識を大切にしつつ、到達目標を明確化した評価のポイントを基に、批判的な読みのために賛成・反対の両方の視点を想像し、書き手の主題設定、議論の進め方、結論の妥当性を考えようとしている。	第1次での自分の問題意識を大切にしつつ、到達目標を明確化した評価のポイントを基に、批判的に読み、書き手の主題設定、議論の進め方、結論の妥当性を考えようとしている。 (関心・意欲・態度)
4 本時	個人で読み取ったことを基に、書き手の主題・構成・結論が信頼性のあるものか、賛成・反対の視点の両方を想像し、チームで協力して検証して批判的な読みを身に付ける。	交流したことを生かして、書き手の主題設定、議論の進め方、結論の妥当性についての考えを身に付けることができている。 (読む能力)

第3次 自分の考えをもつ。…………… 1時間

## 5 本時の指導

### (1) 目標

書き手の主題設定、議論の進め方、結論の妥当性を考え、ワークシートをチームで交流し、「『ふしぎ』ということ」における、書き手の考えを選び取る読み（批判的な読み）を身に付ける。

### (2) 準備・資料

学習カード、本時の交流の手引き、学習評価ポイント、ワークシート、付箋、ノート、話合いに必要な要素、課題解決チーム学習の力の段階的な獲得目標チェックリスト、本文における「物語」、「神話」の定義についての参考資料

### (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>交流を通し、「『ふしぎ』ということ」の批判的な読みを身に付ける。</p></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「学習カード」、「学習評価ポイント」、「本時の交流の手引き」を参照してA及びB評価のクリアを目標とさせる。</li><li>・だまし絵を用いたアイスブレイクを行い、お互いの意見を丁寧に聞き合える関係づくりに役立てる。</li><li>・「話合いに必要な要素」、「課題解決チーム学習の力の段階的な獲得目標チェックリスト」を活用資料として明示する。</li><li>・前時の評価規準に達しなかった生徒及び欠席者に対し、あらかじめ前時のワークシートに改善点を記入し、本時の学習が進められるように配慮する。</li><li>・賛成の視点、反対の視点の両方を想像することで、異なる意見に対しての寛容性や柔軟な思考を養い、多角的な視点で問題を検証できるように配慮する。</li></ul>
2 交流のポイントについて確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>「本当にそうか」と、書き手の主題・構成・結論が信頼性のあるものか、賛成・反対の視点の両方を想像し、チームで協力して検証すること。</p></div>	
3 批判的な読みを4人のチームで交流し合う。 (1) 各自の読みを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>〈反対の視点の例〉 「科学的説明としては正しくなくても、物語の方が納得がいく。」という筆者の結論には、疑問がある。なぜなら、このことの具体例が、子どもや古代ギリシャの例であり、これは、人間の発達段階の一つとして認めることはできても、成長して乗り越えるべきことではないかと考えられるからだ。その人にとって納得がいく物語とは、他者にとって自己中心的世界観に過ぎない。現代社会における物語軽視が引き起こしている問題の実例を示していないため、説得力に欠ける。</p></div>	
(2) 各自の考えを交流して話し合う。 (3) 付箋、チェックリスト、ワークシートを活用し、話合いの内容を比較・分類し、整理する。	④交流したことを生かして、書き手の主題設定、議論の進め方、その答えの妥当性についての考えを深め、広げている。（ワークシート・付箋の記述）
4 本時の学習を振り返る。 ・学習カード、チェックリスト、「学習評価ポイント」に自己評価を書き込む。	
5 次時の学習への見通しをもつ。	・自己評価を通して、各自の問題意識と関連させて考えを再構築しようとする意欲を喚起する。